

はじめて学ぶ簿記入門塾 (第19講)

{途中からでも学習可能です}

「ブランド」は
資産ではありません！？



◆資産とは？

会社の財産のこと

財産とは、「現預金」及び

「将来、現預金などの価値の獲得に貢献するもの」

ただし、例えば従業員・社長のカリスマ性・社長が有名など、金額（円）で測定できないものは資産になりません。

◆資産とは？

将来、現預金などの価値の獲得に貢献するもの

「将来、現預金などの価値の獲得に貢献するもの」とは、例えば貸付金のように「あとでお金を受け取る権利」や、社用車のように「会社の経営に必要なもの」などです。社用車は、ないと効率的な営業ができないので、会社の将来の現預金の獲得に間接的に貢献しています。

また、「会社の将来の現預金などの価値の獲得に貢献する」ことを「資産性」ということもあります。

◆資産の種類

- 現預金（通貨・貨幣）
現金，普通預金，当座預金など
- 債権（将来お金をもらえる権利）
売掛金，受取手形，貸付金，**未収金**など

当座預金：小切手や手形の支払代金が引き落とされる預金で、取引の多い会社が取引用の口座として設けていることが多いです。なお、利息は付きません。

売掛金：会社間の商品売買の取引は請求書を発行して行われることが一般的ですが、請求書には「お支払い期限：納品日の翌月末日」などと書かれていたりします。このように商品をついで販売したときに、後日代金を受け取る権利を売掛金といいます。

受取手形：商品を販売し、後日売掛金を回収するときに、現金ではなく代わりに約束手形で支払われることがあります。約束手形とは、誰が、いつ、誰に、いくら支払うかという約束事を記した証券です。約束手形を受け取ったときの勘定科目が受取手形です。

貸付金：他人にお金を貸したとき、その貸しているお金を記録する勘定科目

未収金（未収入金）：商品以外のものを売却し、代金が未回収(ツケ)のときに用いる勘定科目です。商品以外とは、例えば会社の持っている有価証券や営業用車両などです。商品のツケ販売のときは売掛金を用います。

◆資産の種類

- 有価証券

国債や、自社以外の会社の株式や社債などの換金性のある証券のことです。会社が運用目的で国債等を所有しているときは有価証券という勘定科目を使用します。

- 棚卸資産（将来販売するための資産）

繰越商品，製品，原材料など

会社は通常1年間を一区切りの期間とします。この期間を「会計期間」といい、会計期間の最後の日の貸借対照表と、その会計期間の損益計算書を作成します。会計期間の最後の日を「決算日」といいます。

例えば4月1日に会計期間がスタートすると決算日は翌年の3月31日です。

決算日時点で未販売の商品在庫を「繰越商品」といいます。

また、メーカー企業が完成した製品で、決算日時点でまだ工場にあって店頭には並んでいないものを「製品」といいます。

さらにメーカーが製品を製造するために購入した原材料で、決算日時点で製造工程に投入されていないものは「原材料」という勘定科目を使用します。

このように、将来、販売活動等を行うために保有している資産を「棚卸資産」といいます。決算日での在庫金額が貸借対照表に表示されます。

◆資産の種類

- 固定資産（長期にわたって使用する資産）

建物，土地，備品，車両運搬具，ソフトウェア，特許権 など

建物のように形のある固定資産を「**有形固定資産**」といいます。

ソフトウェアのように形のない固定資産を「**無形固定資産**」といいます。特許権や商標権のように、法律で定められた権利でその取得にお金がかかるものも無形固定資産です。

◆仕訳のルール(資産)

貸借対照表

資産	負債
	純資産

資産のホームポジションは左側(借方)

取引1の仕訳
現金 5円 / 資本金 5円

現金は資産、資産が増えたら左に記載

資産の仕訳のルール

現金のようなホームポジションが左の資産が増えたら仕訳の左(借方)、減ったら右(貸方)に記入する。

現金という資産の勘定科目が貸借対照表に記載される
左側の位置がホームポジションで、その
現金という資産の勘定科目が増えたらホームポジションと同じ左側に、減ったら逆の右側に仕訳する。